

囚われた野生のイルカたちは、私たち人間の一時の娯楽のために、一生狭いプールの中に監禁され、ストレスを抱えながら死ぬまで芸をさせられるのです。

元は野生のイルカです。野生のイルカが一日に泳ぐ距離は約65キロ、泳ぐスピードは時速50キロ程(それ以上出すイルカもいる)と言われています。

家族や仲間たちと広い海で自由に泳ぎ、自然な時間の流れのなかで、命を全うする。

それが野生のイルカの本来の姿です。

しかしイルカショー用に捕まると、狭いプールの中に監禁され、自由など全く無く、芸をさせられ続けるのです。プールから出られる時は死んだ時です。

イルカは水族館に売られるために捕まえています。ですから水族館やイルカショーに行く人がいる限り、犠牲となるイルカは後を絶ちません。

イルカ追い込み猟について  
LIAのYouTubeとブログをご高覧ください。

◆捕鯨・イルカ猟とお金の話



◆太地で赤ちゃんイルカや子どものイルカも大量に殺される。その正当性はどこにあるのか？



◆母親は全て殺され、子どもは全て海に捨てられた。



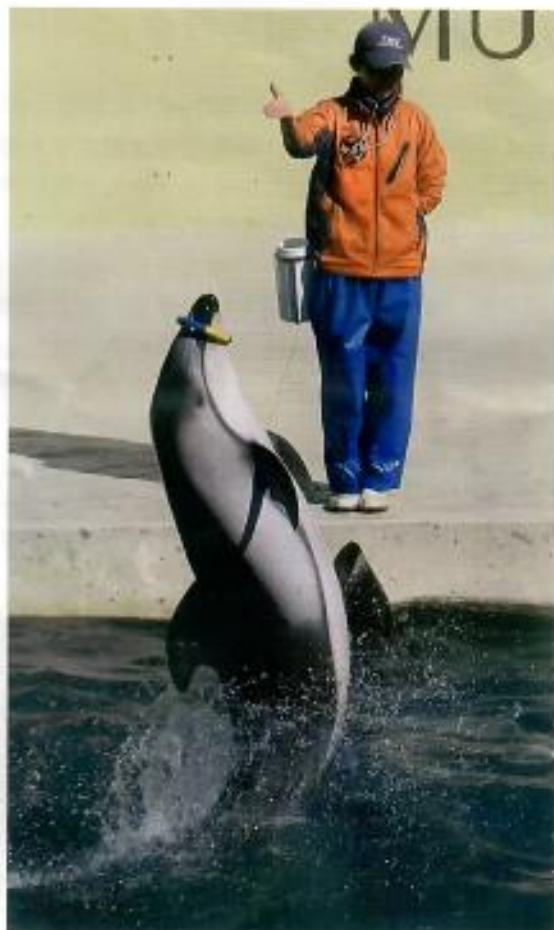
LIAは自然環境保護団体です。LIAでは、学校などで自然環境や野生どうぶつについての授業を無料で行っていきます。ご依頼については下記までご連絡ください。

【お問い合わせ先】  
Mail: info@ngo-lia.org  
TEL: 090-1115-5988



NGO Life Investigation Agency

# イルカショーの イルカはどこから 来るの？



# LIA

Life Investigation Agency

## 水族館やイルカショーのイルカはもとは野生のイルカです。

現在、日本国内だけではなく、世界中の水族館などに生体販売されている野生のイルカの殆どは、和歌山県太地町で行われている「イルカ追い込み猟(鯨類追い込み網漁)」によって捕獲された野生のイルカです。

### イルカ追い込み猟とは？

1969年に「太地町立くじらの博物館」の開館に伴い、イルカを生きたまま展示し、来場者数を増やすために、野生のイルカを生け捕りにする「イルカ追い込み猟(鯨類追い込み網漁)」が始まりました。

和歌山県や太地町では、この「イルカ追い込み猟」を「伝統」や「食文化」と言っていますが、実際は食用にするよりも、生きたままのイルカの方がはるかに高額で売れるため、生け捕りにして販売する「生体販売ビジネス」です。

※猟期：毎年9月1日～翌年2月末まで、悪天候など以外は毎日猟師が海に捕まえるイルカを探しに行きます。



しかし、赤ちゃんや子どもは体が小さく、肉の取れる量が少ないため、殺さずに海に捨てられることもあります。(毎年イルカの捕獲数が決められており、小さい個体でも1頭とカウントされるため、利益を考え、殺すか捨てるか決めています)イルカは哺乳類のため、母乳を飲んでいきます。

そのため、赤ちゃんイルカや子どものイルカだけを海に返しても、死んでしまいます。

〈殺されたイルカの血で真っ赤に染まった入り江〉



### 水族館やイルカショー用に生け捕りにされたイルカの一生

イルカは自由に海で生きている時には死んだ魚は食べません。本来なら食べない「死んだ魚」を無理やり口を開けさせられ(棒を口の中に入れて無理やり開けたりもします)食べることから調教され、ドルフィントレーナーがイルカの顔を踏んだりし、食べ物を使って支配関係を作り調教されます。

ストレスにより常同行動(同じことを繰り返す行動)をするようになり、精神崩壊するイルカも少なくありません。

### なぜ「イルカ追い込み猟」が行われ続けるのか？

それは水族館でイルカショーが行われているからです。

## 水族館やイルカショーのイルカは もとは野生のイルカです。

現在、日本国内だけではなく、世界中の水族館などに生体販売されている野生のイルカの殆どは、和歌山県太地町で行われている「イルカ追い込み猟(鯨類追い込み網漁)」によって捕獲された野生のイルカです。

### イルカ追い込み猟とは？

1969年に「太地町立くじらの博物館」の開館に伴い、イルカを生きのまま展示し、来場者数を増やすために、野生のイルカを生け捕りにする「イルカ追い込み猟(鯨類追い込み網漁)」が始まりました。

和歌山県や太地町では、この「イルカ追い込み猟」を「伝統」や「食文化」と言っていますが、実際は食用にするよりも、生きのままのイルカの方がはるかに高額で売れるため、生け捕りにして販売する「生体販売ビジネス」です。

※猟期：毎年9月1日～翌年2月末まで、悪天候など以外は毎日猟師が海に捕まえるイルカを探しに行きます。



## どうやって野生のイルカを 生きのまま捕まえるの？

猟師が海で野生のイルカを見つけると、船に括り付けた金属の棒を鉄のかなづちで叩き、イルカにとってとても嫌な音を出し、狭い入り江まで追い込みます。

イルカは全身でその嫌な音を感じ、怖がり、強いストレス状態の中、パニックになりながら必死に逃げます。猟師は入り江近くまでイルカを追い込むと、小さなボートに乗った猟師が、紐が付いた金属の棒を何度も海に投げ込み(金属棒がイルカのカラダに直撃することもあります)、さらに浅い所まで追い込みます。

イルカは常に家族や仲間と行動しています。赤ちゃんイルカや子どものイルカがいる群れは、その子たちに合わせてゆっくり逃げるため、猟師に捕まりやすく(追い込まれやすく)なります。

そして赤ちゃんイルカや子どものイルカも、お母さんに付いて必死に逃げます。



しかし、赤ちゃんや子どもは体が小さく、肉の取れる量が少ないため、殺さずに海に捨てられることもあります。(毎年イルカの捕獲数が決められており、小さい個体でも1頭とカウントされるため、利益を考え、殺すか捨てるか決めていきます)イルカは哺乳類のため、母乳を飲んでます。

そのため、赤ちゃんイルカや子どものイルカだけを海に返しても、死んでしまいます。

〈殺されたイルカの血で真っ赤に染まった入り江〉



## 水族館やイルカショー用に 生け捕りにされたイルカの一生

イルカは自由に海で生きている時には死んだ魚は食べません。本来なら食べない「死んだ魚」を無理やり口を開けさせられ(棒を口の中に入れて無理やり開けたりもします)食べることから調教され、ドルフィントレーナーがイルカの顔を踏んだりし、食べ物を使って支配関係を作り調教されます。

ストレスにより常同行動(同じことを繰り返す行動)をするようになり、精神崩壊するイルカも少なくありません。

## なぜ「イルカ追い込み猟」が 行われ続けるのか?

それは水族館でイルカショーが行われているからです。

囚われた野生のイルカたちは、私たち人間の一時の娯楽のために、一生狭いプールの中に監禁され、ストレスを抱えながら死ぬまで芸をさせられるのです。

元は野生のイルカです。野生のイルカが一日に泳ぐ距離は約65キロ、泳ぐスピードは時速50キロ程(それ以上出すイルカもいる)と言われています。

家族や仲間たちと広い海で自由に泳ぎ、自然な時間の流れのなかで、命を全うする。

それが野生のイルカの本来の姿です。

しかしイルカショー用に捕まると、狭いプールの中に監禁され、自由など全く無く、芸をさせられ続けるのです。プールから出られる時は死んだ時です。

イルカは水族館に売られるために捕まえられています。ですから水族館やイルカショーに行く人がいる限り、犠牲となるイルカは後を絶ちません。

イルカ追い込み猟について  
LIAのYouTubeとブログをご高覧ください。

◆捕鯨・イルカ猟とお金の話



◆太地で赤ちゃんイルカや子どものイルカも大量に殺される。その正当性はどこにあるのか?



◆母親は全て殺され、子どもは全て海に捨てられた。



LIAは自然環境保護団体です。LIAでは、学校などで自然環境や野生どうぶつについての授業を無料で行っています。ご依頼については下記までご連絡ください。

【お問い合わせ先】

Mail: info@ngo-lia.org

TEL: 090-1115-5988

NGO Life Investigation Agency

